

# 洪水から市民を守るまちづくり

— 日立市南部地域 逃げ遅れによる人的被害をゼロに —

## ■ 事業の目的

- ・ 令和元年東日本台風の接近時には久慈川の水位が榊橋の観測点において**7.46m** (計画高水位**7.54m**) に達するなど一時危機的な状況に。
- ・ 日立市南部地域は、**東西約4.5km、南北約2.7kmの広い範囲において洪水による被害が想定**されている。また、5m以上の浸水深が想定される範囲が広く、また近隣に高台などがないたため、一帯が水没してしまう恐れがある。さらに、**市指定の緊急避難場所までは距離がある**うえ、茂宮川を越えて北へ避難しなければならぬため、**茂宮川の水位が上昇している際には、避難が困難に。**



## 逃げ遅れが発生した場合の「一時的な避難場所」の確保へ (都市防災総合推進事業の活用)

## ■ 一時避難施設について

### 凡例

※ほぼ全域が5m~10m

5m ~ 10m
3m ~ 5m
0.5m ~ 3m
0.5m ~ 1m
~ 0.5m
~ 0.3m

日立南太田IC



【避難階段 (久慈川日立南交流センター)】  
 高さ：屋上6.5m  
 ※洪水時の最大想定浸水深 約5m  
 面積：退避所 (屋上) 約150㎡  
 収容人数：約100人



【避難タワー (神田町)】  
 高さ：避難所 (2階) 7m  
 緊急救助用スペース (屋上) 9.7m  
 ※洪水時の最大想定浸水深 約5m  
 面積：避難所 (2階) 約120㎡  
 収容人数：約100人



避難階段 (留大橋)  
 建設地：県道日立東海線 (法面に設置)  
 高さ：約6m (周辺地盤は約3m程度)  
 ※洪水時の最大想定浸水深 約5m

出典：国土交通省 重ねるハザードマップ3D (洪水)

## ■ 一時避難施設の整備効果

逃げ遅れ想定  
約200人

全て  
収容可能に

※令和2年度に実施した「洪水危険度判定調査」の結果で出た、浸水想定区域内居住者約2,100人のうち「約200人の逃げ遅れ」が、避難タワー及び交流センター周辺で解消された。

## ■ 更なる地域防災力の向上へ

令和4年11月に洪水避難タワーを活用した**総合防災訓練を実施**しました。  
 災害時には早めの避難を心がけ、**逃げ遅れた際には高台への避難など命を守る行動**をとりましょう。

